

第16回高知市総合教育会議 議事録（概要版）

- 1 日 時 令和4年7月25日(月)
開会：午後2時00分 閉会：午後3時30分
- 2 開催場所 たかじょう庁舎 6階 大会議室
- 3 出席者
- (構成員)
- | | |
|--------------|--------|
| 高知市長 | 岡崎 誠也 |
| 高知市教育委員会 教育長 | 松下 整 |
| 委 員 | 谷 智子 |
| 委 員 | 西森 やよい |
| 委 員 | 野並 誠二 |
| 委 員 | 森田 美佐 |
- (市長事務部局)
- | | |
|---------|-------|
| 高知市副市長 | 中澤 慎二 |
| 高知市副市長 | 松島 研 |
| 総務部部長 | 橋本 和明 |
| 総務部副部長 | 谷脇 由人 |
| 政策企画課長 | 大宮 剛夫 |
| 政策企画課主査 | 加嶋 竜也 |
- (教育委員会事務局)
- | | |
|---------------------|--------|
| 教育次長 | 山中 浩介 |
| 教育次長 | 岩原 圭祐 |
| 教育政策課長 | 岸田 正法 |
| 教育政策課長補佐 | 島崎 由紀子 |
| 教育政策課総務担当係長 | 神岡 純子 |
| 学校教育課長 | 竹内 清貴 |
| 学校教育課教育企画監 | 市原 俊和 |
| 学校環境整備課長 | 高橋 直人 |
| 学校環境整備課長補佐 | 奥宮 磨美 |
| 学校環境整備課情報整備担当係長 | 中山 智広 |
| 学校環境整備課指導主事 | 高畑 將樹 |
| 学校環境整備課指導主事 | 西田 尚弘 |
| 教育研究所長 | 近森 夏彦 |
| 教育研究所情報教育学校支援アドバイザー | 岡崎 伸二 |

4 議 題 (1) G I G Aスクール構想の進捗状況

5 議事の経過

- G I G Aスクールの進捗状況について、教育委員会事務局から【資料1】～【資料4】に沿って説明。タブレット端末を委員に配布し実際に操作しながら説明。

- 議論

(谷委員)

G I G Aスクール構想のハード面はだいぶ整備されてきたと感じており、今後はソフト面の充実が課題になってくると考えている。授業レベルの向上を考えたときに学校教育課と教育研究所の役割がとても重要だと思うので意気込みを聞かせてもらいたい。

また、授業レベル向上のため、通常の授業の中にどのようにタブレットやICTを取り入れていくかということが求められている。こういったことは、ベテランの先生がこれまで培ってきた授業技術と若い先生のパソコンの技術の融合によって解決されると考えている。学校ごとに力を入れている授業があるので、そこにどうICTを取り入れ無理のない形で実施できるかをベテランの先生と若手の先生がタッグを組んで考えてもらいたい。

さらに、高知市の子どもICTスキルについて、段階的にここまでできるようにすることが分かるような資料を作成してもらいたい。

(学校教育課 市原教育企画監)

授業レベルの向上に向けた取組や意気込みについてですが、高知商業高校や城東中学校等ではどんどんICTの活用が進み、今後、学力向上へ寄与していくものと考えている。一方で断片的な活用では、学力向上は望めないのではないかと心配しているので、今後もICTの更なる活用を研究していきたい。

ベテランの先生と若い先生の協力体制についてだが、現在各学校で行われている研修が少しずつ変わってきている。これまでのベテランの先生が若い先生に授業技術を伝えるという内容に加え、若い先生がICTに関する知識をベテランの先生に伝えるということが行われており、これまでにはなかった相乗効果が生まれている。

子どものICTスキルの段階的な目標を記した資料については、今後検討していく。一例を紹介させていただくと、令和6年には全国学力状況調査がコンピュータで順次実施されていくと言われており、小学4年生が6年生になるときはキーボードで文字を打てなければならない場面も想定されるため、現在オフラインでタイピング練習ができるアプリを組み込んで家庭でも練習できるようにしている。

(学校教育課 竹内課長)

授業づくりについて学校教育課では、学力向上推進室の指導主事を中心に授業づくりの取組を進めている。先進的な取組の情報発信をはじめ、学習单元ごとの効率的なICT

の活用について今後も研究を続けていきたいと考えている。

(岡崎市長)

理科研究部会のような外部の組織と一緒に活動はしていないのか。

(松下教育長)

研究部会とも一緒に研究を進めており、この夏も教科の部会によってはタブレットの活用について研究しているところがある。学校内部での研究と外部との研究の両輪で研究を進め各学校の研究テーマに合わせた進め方をしている。

(西森委員)

2点意見がある。まず、新しく良いことを実践しようとしても、そもそもクラスの生徒指導が上手くできていなければ進まないと思う。例えばホストコントロールができない今のタブレットでは、説明のタイミングを間違えると子ども達は説明を聞かなければいけない時にダメと言われても楽しければ触って遊びはじめ、教室全体が荒れ始めることも想定される。こういった問題は、先生によっては自分の指導力の問題と捉える方もいるかもしれないが、こういったことこそ情報共有を図るべきである。先ほどの説明の中で、お困りごと相談窓口を設置したと言われていたが、先生方に対して上手くいかなかったことを恥ずかしがらずに遠慮なく教えてほしいというメッセージを発信してもらいたい。2点目は、生徒指導とICTを上手く絡めることができないかということである。例えば、ざわついていた教室がICTのこういった活用方法によって子どもたちのやる気が出て、こういった良い結果が生まれたというようなことが起きるかもしれないのでICTと生徒指導という観点を持っておいてもらいたい。

(学校教育課 市原教育企画監)

学校現場からは、どこまで制限しどこまでを良しとするかの判断が難しいという声を聞いている。しかしながら、各学校で起こっている問題を十分把握できているわけではないので現場の声に耳を傾け、問題点については改善策を提示しながら解決に向けて努力していきたい。

生徒指導とICTについては、タブレットを使用している中学校の授業の様子を見ると、居眠りをしている生徒が少なくなっているように感じている。今後も西森委員が言われたような生徒指導と絡めた成功事例についても共有していきたい。

(森田委員)

質問を1点、感想を3点述べさせていただく。資料1の⑥デジタル教科書の欄に国語、算数・数学、理科、社会、英語、書写が整備済みとあるが、その他の音楽、美術、技術家庭、保健体育はデジタル教科書を活用しないという方針なのか。それとも、そもそもその科目の

デジタル教科書が不足しているのかを教えてください。次に感想を3点お伝えする。まず1点目はデジタルスキルを身に付けることは、これから社会を生きていく上でとても必要なことなので、何をすべきではなく何をしなければいけないのかといった基本的なことをしっかりと学校で教育していく必要があると感じた。

2点目は、GIGAスクールの中で勉強以外に疑う力や建設的な批判力というものを身に付けてもらいたいと感じた。簡単に世界中から情報を得ることができるようになってるので、得た情報が正確なものなのかをしっかりと疑い調べる能力が必要である。そして、情報を得るだけでなく、得た情報から自分はどうか考えたのかということまで考えるようになってもらいたい。

3点目は、西森委員と同じだが現場の声をしっかりと聞いてもらいたい。全てをデジタルと対面で実施することは負担が大きくなる場合がある。内容によっては対面の方が楽で効果を得られるものもあるので、そういったものは対面で実施するということを決めることも必要だと思う。

(学校教育課 竹内課長)

デジタル教科書についてお答えする。書写は、国語科書写の扱いになっており、国語のデジタル教科書の中に書写の内容も含まれているので、書写のみのデジタル教科書を整備したわけではない。その他の教科については、数年前まで指導者用のデジタル教科書が作成されていなかったことや、指導者用のデジタル教科書は1学年1教科数万円と費用が高く、全校全学年で準備するとなると予算が膨らむため現在は資料1に記載している教科のみとなっている。

(岡崎市長)

森田委員が言われたように、インターネットは既にインフラになっており、デジタルスキルは今後の社会では必須になると思う。また、インターネットは何が危険で何が安全かといったことも基礎知識として学校でしっかりと教えていく必要があると感じた。

(野並委員)

私が10代の頃にシンセサイザーというものが世に出てきて同年代の人たちは、そのシンセサイザーはどんな音がでるのか、どんなことができるのかと想像力を掻き立てられていた。今のこのGIGAスクール構想の中にいる子どもたちも、タブレットやICTで何ができるのかということで想像力を掻き立てられているのではないかと感じた。

岡山県のNHKは、地元の資料映像を学校の授業で使えるように編集し無料で公開してくれているようだ。もし高知で実施されていないのであれば取組を検討してもらいたい。また、NHKだけでなく地元の企業がもつ授業で使えるような資料があれば提供いただくという仕組みがあれば特色のある授業になると思うので検討いただきたい。

(学校教育課 市原教育企画監)

資料映像が授業で使用できるということは大変ありがたいので、皆様のお力もお借りしながら検討していきたい。

(岩原教育次長)

情報提供になるが、現在、高等学校とオーペピア高知図書館が連携し電子書籍を高校のタブレットで閲覧できるような取組を進めている。また、小中学校についてもタブレットの整備が完了したことを受け調整してくれているようだ。

(谷委員)

ここまでG I G Aスクール構想が進んできたのは、関係課の皆さんが努力された結果だと思っており敬意を表す。令和5年度には高知市モデルの構築が予定されているとのことで大変楽しみにしている。高知市モデルということなので、是非高知市のオリジナルの色を出し、これが高知市のモデルだと皆さんに理解してもらえるような分かりやすくインパクトのあるモデルにしてもらいたい。

(松下教育長)

高知市らしさということについては、60通りの構想が一つの高知市らしさではないかと考えている。各学校がチャレンジしたり失敗したり、若い先生がベテランの先生を教えたり、高知市の先生を高知市が育てたりといった先輩方がずっとやってきてくれたことも、このG I G Aスクール構想も、是非実現させていきたいと考えている。多くの課題がありやらなければいけないことも山積みではあるが、このG I G Aスクール構想が高知市の先生方を育てる、大きな推進役となるように頑張っていきたい。

● 閉会